



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】 質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 23 R6. 03. 01

文責 学校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

卒業おめでとう – 真にカルチベートされた人間に –

もう君たちとは逢えねえかも知れないけど、お互いに、これから、うんと勉強しよう。勉強というものは、いいものだ。代数や幾何の勉強が、学校を卒業してしまえば、もう何の役にも立たないものだと思っている人もあるようだが、大間違いだ。植物でも、動物でも、物理でも化学でも、時間のゆるす限り勉強して置かなければならぬ。日常生活に直接役に立たないような勉強こそ、将来、君たちの人格を完成させるのだ。

何も自分の知識を誇る必要はない。勉強して、それから、けろりと忘れてもいいんだ。覚えるということが大事なのではなくて、大事なのは、カルチベートされるということなんだ。

カルチュアというのは、公式や単語をたくさん暗記している事でなくて、心を広く持つという事なんだ。つまり、愛するという事を知る事だ。

学生時代に不勉強だった人は、社会に出てからも、かならずむごいエゴイストだ。学問なんて、覚えると同時に忘れてしまってもいいものなんだ。けれども、全部忘れてしまっても、その勉強の訓練の底に一つかみの砂金が残っているものだ。これだ。これが貴いのだ。

勉強しなければいかん。そうして、その学問を、生活に無理に直接に役立てようとあせってはいかん。ゆったりと、真にカルチベートされた人間になれ！ これだけだ、俺の言いたいのは。

君たちとは、もうこの教室で一緒に勉強は出来ないね。けれども、君たちの名前は一生わすれなくて覚えているぞ。君たちも、たまには俺の事を思い出してくれよ。あっけないお別れだけど、男と男だ。あっさり行こう。最後に、君たちの御健康を祈ります。

太宰治『正義と微笑』

出典は太宰の小説で旧制中学を舞台とする物語です。この一節は退職する先生から主人公を含めた生徒たちに向けた言葉です。主人公と退職する先生の関係性、主人公の抱く思いなど、上記の一節だけでは伝わらない人間模様や心境が描かれているのでぜひ読んでみてください。(インターネット“青空文庫”(無料))

「カルチベート」は前回の通信(『ラゲリより愛をこめて』)でも紹介しました。お察しのとおり英語の cultivate です。cultivate とは「耕す、耕作する」「磨く、洗練する」「養殖する、培養する、養う」といった意味があります。

「真にカルチベートされた人間になれ！」とは「洗練された人間、耕された人間になれ」ということなのでしょう。「学校の勉強も大切だか、勉強以外から学べることも大切だ」あるいは「勉強以外から学べることも大切だが、学校の勉強も大切だ」と読めます。

卒業生の皆さんそして在校生の皆さん、学校の勉強や日々の経験などから学び、人として耕され洗礼され、学校で学んだことを無理に直接役立てようとせず、焦らず良い人生を歩んでください。それは“探究”を進めるうえでもきっと役立つはずです。

具体と抽象を考える

先日、縁あって小学校の先生方の研修会でお話しする機会がありました。私自身以前、義務教育学校という小中一貫教育校で仕事をしたこともあり、1年生から9年生(俗に言う中3生)という幅広い学年層にどんな言葉を使って話しかけるか、とても難しかったのを覚え



ています。成長過程では具体と抽象を行き来する力を鍛えなければいけないと感じました。

皆さんも経験してきたように、幼いうちは具体物を使って物事を理解します。算数でリンゴやミカンの数を考えたように。しかし年齢が上がるにつれてそれはxやyといった文字に抽象化されます。



抽象の“抽”という字には「引き出す」という意味があります。「抽斗」は「ひきだし」と読みます。お湯で成分を「抽出」するとも言います。“抽”とはそういう「引き出す」試みなのです。抽象というと具体的でわかりやすい事象をかえって曖昧にすることではないかと感じることがあるかも知れませんが、実はそうではありません。具体的な事象の中に潜む本質を引き出し、さらに言語化することが“抽象化”なのです。

探究におけるフィールドワークにも実はそういう側面があります。「世界の貧困をなくしたい」という命題もまず“どこの”“誰の”問題なのかを具体的にしていくことが大切です。それは“佐賀県の”“武雄市の”どこに当てはめるとどういう事象に当たるのか、その問題の本質はどこにあるのか、というように深掘りしていくことで物事の本質が見えてきます。すなわち、特殊な事象を抽象化していけば普遍的な命題につながるわけです。その意味で地域をフィールドにした探究活動はきっと皆さんの地頭を鍛えてくれることでしょう。

抽象的なものは目に見えたり触ったり五感で感じることはできないものです。しかし抽象化できるということは違う世界が見えるということであり考えることそのものなのです。

これからの探究が単に調べ学習や思い付きのアイデアによる結論にとどまらず、自分の頭で論理的に考える道筋そのものであることを期待しています。

武高生、英語力伸びてる？ -佐賀県伸び幅九州1位！-

九州・沖縄で英語検定準2級レベル（高校中級程度）に達した公立高校の割合を2022年度

英検準2級の割合 九州・沖縄の伸び幅

県名	伸び幅	全国順位
佐賀	14.2	19
福岡	12.3	26
鹿児島	8.6	34
宮崎	8.1	35
熊本	6.9	39
長崎	5.4	43
沖縄	4.8	45
大分	3.1	47

※16年度と22年度の文科省調査結果を比較

と2016年度で比較した伸び幅が最も大きかったのは佐賀県でした！（2月17日付け日経新聞）すばらしい！本校もたくさんの方が毎回英検にチャレンジしているのもっと多くの方が同等かそれ以上の力をもっているものと思います。

「SAGA eスタディ」という佐賀県が独自に作成したデジタルコンテンツがあります。これはかなりいいそうですね。読み・書きだけでなく、リスニングやスピーキングにも対応し、内容的にも精度が高いと聞いています。英語は受験科目から外せないものではありませんが、自分の思いを伝えられるメッセージツールでもあります。しっかり鍛えてほしいものです。

ところで、学校評価アンケートで「家庭学習において学習用PCを効果的に活用している」に肯定的に回答した人の割合は残念ながら38%にとどまりました。そこで「SAGA eスタディ」のようなデジタル教材を自宅で積極的に活用してみたいはかがでしょうか。自主性・主体性も鍛えられて一石二鳥です。

（閑人閑話）久しぶりに授業の夢を見た。しかしそれは授業の準備を忘れてしまい、教壇に立ったはいいものの、何をどうして進めていいか戸惑うという嫌な夢だった▼そういうえば中学時代一度だけ授業をさぼったことがある。次の時間の社会の発表準備をするとかいう理由で数学の授業を友人と二人、別室でさぼった▼当然、あとから先生にこっぴどく叱られた。「俺は一時間の授業をするのに3時間準備する。それを何だと思ってる！」先生の思いを知った一言だった▼本校の先生方も朝早くから夜遅くまで、或いは自宅で、いい授業をしようとしてしっかり準備をなさっている。なら授業を丁寧に受けることはもちろんだけれど皆さん自身も自宅でそれなりの時間をかけて準備やフォローをすべきではないのか▼主体性・自主性が大事だ。3月は高校入試や春休みで自分の時間が戻ってくる。皆さんの学びが充実する春でありますように。（昌）

- 【当面の主な予定（3月前半）】
- 1日（金）卒業式
 - 5日（火）高校入試（6日まで）
 - 7日（木）自宅学習
 - 8日（金）国公立大学中期試験
 - 12日（火）国公立後期試験
 - 13日（水）高校入試合格発表
 - 14日（木）高校入試合格者登校日